

# 1. 共創学部

(1) 共創学部の研究目的と特徴	1-2
(2) 「研究の水準」の分析	1-3
分析項目Ⅰ 研究活動の状況	1-3
分析項目Ⅱ 研究成果の状況	1-6
【参考】データ分析集 指標一覧	1-8

## (1) 共創学部の研究目的と特徴

### 1. 研究目的

共創学部の研究目的は、個々のディシプリンベースの専門知識・技術をもとに、グローバル化した社会の諸課題の設定とその解決を目指して、文理を超えた専門的知識・技能を組み合わせ、課題解決のための方法論を創出する研究、すなわち、「共創的課題解決」に向けた研究を推進することである。そのために、様々な分野の専門家が集まる学部における研究の共通テーマとして「地球の持続可能性」を掲げ、複雑化した地球的・人類的課題に対し、既存の学知を組み合わせ、解決方策を探究する。

### 2. 研究成果に関する方針

上記の研究目的の達成のために、1) 地球の持続可能性に関する総合研究、2) 地球的・人類的課題に関する研究、3) 文理融合を含め複数の専門領域にまたがる学際的研究、4) データサイエンス、デザイン思考、グローバルヒストリー、グローバルエシックス、フィールド調査等、既存の学知を組み合わせるための基盤研究、などにおいて、課題解決を目指した統合的な学際性を創出する最先端の研究、ならびにその創出の基軸となる専門分野を牽引するような研究の成果をあげる。研究成果は国内外の関連学会で発表するとともに、論文や学術書を執筆・刊行する。また、それらの成果を学部教育に取り入れていく。

### 3. 研究組織運営に関する方針

共創学部は、複数の専門分野にまたがる社会的課題の解決を行える人材を養成するために、4つのエリア（人間・生命、人と社会、国家と地域、地球・環境）とエリア横断という多様な学びの場を設計し、各エリアにおけるディシプリンベースの方法論を、課題解決のために有機的・最適に関連付けられる文理融合型カリキュラムを実施している。教員はこのカリキュラムの枠組みにそって、課題解決を目指した統合的な学際性を創出する最先端の研究、ならびにその創出の基軸となる専門分野を牽引するような研究を実施する。学部内に設置した将来計画委員会は、本学部の中長期的な構想を練ることにより研究・教育の活性化を図り、評価委員会は研究成果・研究組織・研究基盤を不断に点検・評価して改善につなげる。さらに、広報委員会は研究成果の発信と社会還元を行なう。また、海外パートナー大学等と締結した student exchange MOU や academic cooperation を通して、研究者交流・国際共同研究・シンポジウム開催など研究のグローバル化を推進し、「地球の持続可能性」に関する世界トップレベルの研究を展開する。

### 4. 研究基盤整備に関する方針

科学研究費補助金などの外部資金を積極的に獲得するとともに、自然科学系と人文社会系の両者が絡む複合領域系の大型プロジェクト（文部科学省科学研究費補助金「学術変革領域研究（A・B）」など）の新規採択を目指す。世界トップレベルの外国人研究者・研究ユニットの招聘を進め、国際共同研究を推進するための環境整備に努める。

## (2) 「研究の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

#### <必須記載項目1 研究の実施体制及び支援・推進体制>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 教員・研究員等の人数が確認できる資料（別添資料 7301-i1-1）
- ・ 本務教員の年齢構成が確認できる資料（別添資料 7301-i1-2）
- ・ 指標番号 11（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7301-i1-6）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2018年度の学部開設にあたり、九州大学独自の学府・研究院制度を有効に機能させ、学内の21部局から多彩な専門分野を有する50名の専任教員と29名の科目担当教員を確保した。これにより、従来のディシプリンベースの研究展開から、文理の枠を超えた高い学際性を有し、学術的、社会・文化的に意義の高い研究展開が可能となった。なお、専任教員数には、新たに大学改革活性化制度を活用して措置された4名（国際協力、協働科目、インバウンド、アウトバウンド）及び平成30年度概算要求で措置された1名（学習ログ・データ解析）を含み、海外大学との研究連携等を含む研究のグローバル展開や学際的イノベーション創出にも対応するとともに、共創学部の独創的教育プログラムの成果を研究する体制を整えている。[1.1]
- 学部構成教員の研究背景を活用し、海外からの著名研究者を含む多彩な研究者、企業人、国際実務者等を招聘して、多くのシンポジウムやレクチャーシリーズ（社会で実際に取り組まれている課題解決を学ぶことを目的に、先端的な研究分野や企業等で活躍する講師陣による講演やワークショップ形式で実施される科目）を展開し、研究交流推進を図っている。（別添資料 7301-i1-3～5）  
また、学部における研究支援として、学部長裁量経費を使用し、実績のある若手教員を中心に研究経費を特別配分して、学部教員の研究環境向上を図っている。  
[1.1]

#### <必須記載項目2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 構成員への法令遵守や研究者倫理等に関する施策の状況が確認できる資料（別添資料 7301-i2-1）
- ・ 研究活動を検証する組織、検証の方法が確認できる資料（別添資料 7301-i2-2～3）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 共創的課題解決に向けた統合的な学際性を創出するための研究として優れた活動であることを示すデータの事例を、「研究成果の方針」で述べた4つの領域に分けて示す。1) 地球の持続可能性に関する総合研究：地球創成期からの大陸形成進化過程を含む南極地球科学研究（科研費基盤研究（A）等の採択）、2) 地球的・人類的課題に関する研究：社会考古学のグローバル展開研究（東・東南アジア考古学に関する先端研究を集約した論文集の発刊）、3) 文理融合を含め複数の専門領域にまたがる学際的研究：センシング工学、地理学、農学などの技術・知見を組み合わせたリモートセンシングによる水位変動モニタリングと農地環境評価に関する研究（IF8.2以上の学術誌に掲載）、4) データサイエンス、デザイン思考、グローバルヒストリー、グローバルエシックス、フィールド調査等、既存の学知を組み合わせるための基盤研究：最新の機械学習、データ解析技術を用いた文字工学および文字科学の創成と応用展開（科研費基盤研究（A）および（S）の採択、文部科学大臣表彰（科学技術賞（研究部門））。[2.1]

**<必須記載項目3 論文・著書・特許・学会発表など>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 研究活動状況に関する資料（総合融合系）（別添資料 7301-i3-1）
- ・ 指標番号 41～42（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7301-i3-2）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

（特になし）

**<必須記載項目4 研究資金>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 指標番号 25～28（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7301-i4-1）
- ・ 指標番号 29～30（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7301-i4-2）
- ・ 指標番号 31～34（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7301-i4-3）
- ・ 指標番号 35～38（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7301-i4-4）
- ・ 指標番号 39～40（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7301-i4-5）
- ・ 指標番号 43～44（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7301-i4-6）
- ・ 指標番号 45～46（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7301-i4-7）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

(特になし)

**<選択記載項目D 総合的領域の振興>**

**【基本的な記載事項】**

(特になし)

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 共創学部は、グローバル化した社会の諸課題の設定とその解決を目指して、文理を超えた専門的知識・技能を組み合わせ、課題解決のための方法論を創出する研究、すなわち、「共創的課題解決」に向けた研究を推進しており、そのために、
- 1) 地球の持続可能性に関する総合研究、
  - 2) 地球的・人類的課題に関する研究、
  - 3) 文理融合を含め複数の専門領域にまたがる学際的研究、
  - 4) データサイエンス、デザイン思考、グローバルヒストリー、グローバルエシックス、フィールド調査等、既存の学知を組み合わせるための基盤研究、などに重点をおいている。
- このような研究体制を具現化するために、共創学部は21部局から選出された50名の専任教員と29名の科目担当教員で編成されている。この中には、境界複合領域（デザイン思考、ビッグデータ、脳科学、複雑系科学など）を専門とする教員が含まれている。また、教員が担当する科目を、「人間・生命エリア」、「人と社会エリア」、「国家と地域エリア」、「地球・環境エリア」、「エリア横断」の5つの「エリア」と呼ぶ複合領域に分類し、教員間の相互作用と協働活動による複合的総合的研究の新たな創出と振興を促している。[D.1]

## 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

### <必須記載項目1 研究業績>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 研究業績説明書

(当該学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準)

従来のディシプリンベースの専門教育とは一線を画し、個々の学生が設定する課題と、その解決を目指すために必要となる文理を超えた専門的知識・技能を修得しながら、それらを活用し、更には組み合わせることによって、課題解決への新たなアプローチと方法論を創出する「共創的課題解決能力」という専門性の獲得を目指している。学部教育の共通テーマとして「地球の持続可能性」を掲げ、複雑化した地球的・人類的課題に対し、既存の学知を組み合わせることで解決策を探求させる。本研究業績説明書では、1) 地球の持続可能性に関する研究、2) 地球的・人類的課題に関する研究、3) 文理融合を含め複数の専門領域にまたがる学際的研究、4) データサイエンス、デザイン思考、グローバルヒストリー、グローバルエシックス、フィールド調査等、既存の学知を組み合わせるための研究、等において、学術的および社会・文化的意義の高い卓越した研究を中心に選定した。

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 地球的・人類的課題に取り組む人材を育成するために2018年度に設置された本学部には文理にまたがる多様な専門を有する教員が配置されている。学部を担当する個々の教員は、各々の専門分野において優れた業績をあげるだけでなく、1) 地球の持続可能性に関する研究、2) 地球的・人類的課題に関する研究、3) 文理融合を含め複数の専門領域にまたがる学際的研究、4) データサイエンス、デザイン思考、グローバルヒストリー、グローバルエシックス、フィールド調査等、既存の学知を組み合わせるための研究において、秀でた成果をあげている。
- 1) 地球の持続可能性に関する研究では、小山内康人教授・中野伸彦准教授・足立達朗助教が「南極地球科学および地球創成期からの大陸形成進化過程の研究」(業績番号2)を推進し、人類史を遥かに超える地球史的な観点から地球の成り立ちを究明する重要な成果をあげている。2) 地球的・人類的課題に関する研究では、溝口孝司教授が世界考古学会議会議長として活躍すると同時に、世界銀行ポリシー・ドキュメント作成における先住民ポリシーについて提言を行うなど「社会考古学のグローバル展開」で意義ある成果を残している。(業績番号6)
- 3) 文理融合を含め複数の専門領域にまたがる学際的研究では、菅浩伸教授が最先端のマルチビーム測深を用いた浅海域の精密地形図を作成することによって

## 九州大学共創学部 研究成果の状況

未知の海域を可視化する「浅海底地形学を基にした沿岸域の先進的学際研究」を推進した。（業績番号3）また藤岡悠一郎講師は、「リモートセンシングによる水位変動モニタリングと農地環境評価に関する研究」でセンシング工学、地理学、農学などの知見を組み合わせた業績を生み出している。（業績番号4）4）データサイエンス、デザイン思考、グローバルヒストリー、グローバルエシックス、フィールド調査等、既存の学知を組み合わせるための研究では、それ自体において学際的な研究もあれば、統合的な学際研究の創出の基軸となる専門分野を牽引するような研究もある。内田誠一教授による「文字パターンに関する包括的研究」（業績番号10）はデータサイエンスの領域において傑出した業績であり、上岡玲子准教授による「渦輪を用いた頬触覚ディスプレイの知覚への影響に関する研究」（業績番号8）や山口裕幸教授による「チーム力開発に関する社会心理学的研究」（業績番号7）は人間とモノ、人間と人間との関係における課題解決に貢献する成果である。また、中野等教授による「豊臣政権の研究」（業績番号1）は対外派兵研究を前提として一国史の境界を超え、山尾大准教授による「中東政治をめぐる総合的研究」（業績番号5）は定性的な研究と定量的研究を組み合わせ、大津隆広教授による「関連性理論の枠組みにおける日英語の談話標識研究」（業績番号9）は談話標識やフィルターの多重生起を分析し、それぞれ従来の研究の地平を乗り越える成果を生み出している。

- 上記の研究業績説明書の業績に加え、本学部専任教員である荒谷邦雄教授は「環境研究総合推進費」によるプロジェクト「危機的状況にある奄美・琉球の里地棲希少水生昆虫類に関する実効的な保全・生息地再生技術の開発」（2019-21年度）の研究代表者を務めている。環境研究総合推進費は、持続可能な社会構築のための環境政策の推進にとって不可欠な科学的知見の集積及び技術開発の促進、政策提言を目的として、環境省が毎年公募する大型研究資金である。共創学部の理念と合致する荒谷教授の研究プロジェクトは、2次審査において推薦順位1位という極めて高い評価を受けた。（別添資料 7301-ii 1-1）

## 【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
2. 教職員データ	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
5. 競争的外部 資金データ	25	本務教員あたりの科研費申請件数 (新規)	申請件数(新規)／本務教員数
	26	本務教員あたりの科研費採択内定件数	内定件数(新規)／本務教員数 内定件数(新規・継続)／本務教員数
	27	科研費採択内定率(新規)	内定件数(新規)／申請件数(新規)
	28	本務教員あたりの科研費内定金額	内定金額／本務教員数 内定金額(間接経費含む)／本務教員数
	29	本務教員あたりの競争的資金採択件数	競争的資金採択件数／本務教員数
	30	本務教員あたりの競争的資金受入金額	競争的資金受入金額／本務教員数
6. その他外部 資金・特許 データ	31	本務教員あたりの共同研究受入件数	共同研究受入件数／本務教員数
	32	本務教員あたりの共同研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	33	本務教員あたりの共同研究受入金額	共同研究受入金額／本務教員数
	34	本務教員あたりの共同研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	35	本務教員あたりの受託研究受入件数	受託研究受入件数／本務教員数
	36	本務教員あたりの受託研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	37	本務教員あたりの受託研究受入金額	受託研究受入金額／本務教員数
	38	本務教員あたりの受託研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	39	本務教員あたりの寄附金受入件数	寄附金受入件数／本務教員数
	40	本務教員あたりの寄附金受入金額	寄附金受入金額／本務教員数
	41	本務教員あたりの特許出願数	特許出願数／本務教員数
	42	本務教員あたりの特許取得数	特許取得数／本務教員数
	43	本務教員あたりのライセンス契約数	ライセンス契約数／本務教員数
	44	本務教員あたりのライセンス収入額	ライセンス収入額／本務教員数
45	本務教員あたりの外部研究資金の金額	(科研費の内定金額(間接経費含む)＋共同研 究受入金額＋受託研究受入金額＋寄附金受入 金額)の合計／本務教員数	
46	本務教員あたりの民間研究資金の金額	(共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋寄附金受入金額)の合計／本務教員数	